

10. 呼吸器系の疾患（インフルエンザ、鼻炎を含む）

文献

Suzuki M, Muro S, Ando Y, et al. A randomized, placebo-controlled trial of acupuncture in patients with chronic obstructive pulmonary disease (COPD): the COPD-acupuncture trial (CAT). *Archives of Internal Medicine* 2012; 172(11): 878-886. CENTRAL ID: CN-00832198, PMID: 22905352

1. 目的

COPD 患者の呼吸困難に対する鍼治療の有効性評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

京都大学医学部附属病院呼吸器内科、京都、日本、など 4 病院。

4. 参加者

GOLD 分類Ⅱ期以上で労作時呼吸困難 (DOE)を認める COPD 患者 68 名

5. 介入

Arm 1: 鍼治療群 34 名（男性 31 名、女性 3 名、平均年齢 72.7±6.8 歳）4 名脱落。ステンレス鍼 (0.35×70mm、Dong Bang Acupuncture) を、中府(LU-1)、太淵(LU-9)、扶突(LI-18)、関元(CV-4)、中脘(CV-12)、足三里(ST-36)、太谿(KI-3)、完骨(GB-12)、肺兪(BL-13)、脾兪(BL-20)、腎兪(BL-23) 5-25mm の深度まで刺入し、3-4 分間回旋した。電気刺激は行わなかった。治療時間は 50 分間とした。

Arm 2: 偽鍼治療群 34 名（男性 32 名、女性 2 名、平均年齢 72.5±7.4 歳）2 名脱落。Park の偽鍼を用いて、鍼治療群と同一経穴に刺入しているように見せかけた。

6. 主なアウトカム評価項目

6 分間歩行後の Modified Borg scale(MBS)による DOE 評価。6 分間歩行における歩行距離、歩行中の動脈血酸素飽和度最小値 (SPO₂)、1 秒量、QOL (St George Respiratory Questionnaire: SGRQ)。

7. 主な結果

MBS の両群平均差 -3.58 (95%CI -4.27, -2.90)、6 分間歩行距離 78.68 (95%CI 54.16, 103.21)、最小 SPO₂ 4.73 (95%CI 3.49, 5.96)、SGRQ -15.7 (95%CI -20.3, -11.2)いずれも鍼治療群で偽鍼治療群と比較して有意に改善した。1 秒量は有意差がみられなかった。

8. 結論

COPD 患者の呼吸困難に対する鍼治療は有効である。

9. 鍼灸医学的言及

鍼治療による気管支拡張作用、筋緊張緩和について言及している。

10. 論文中の安全性評価

鍼による重大な有害事象は報告されなかった。軽微な有害事象は、疲労（鍼治療群 4 名、偽鍼治療群 5 名）、皮下出血（鍼治療群 5 名）、めまい（鍼治療群 1 名、偽鍼治療群 2 名）、鍼刺入部位の痛み（鍼治療群 5 名）。

11. Abstractor のコメント

非常に優れた研究デザインの RCT により、COPD 患者の呼吸困難に対する鍼の有効性を偽鍼と比較して明らかにした、貴重な成果である。本研究のような原著論文を数多く発信することで、鍼灸のエビデンスについて明らかにされることを期待したい。

12. Abstractor and date

保坂政嘉 2016.11.19